

市民の方や現場の声に直接触れることができる仕事

高齢介護課 松蔭裕子（一般事務 平成21年度採用）

小田原市役所を志望したきっかけ

大学生の頃、小田原を離れて一人暮らしをした経験から、小田原のゆったりとした風土に改めて魅力を感じ、小田原の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

学生の頃は、社会福祉を学び、地域福祉に関心を持っていました。公共のサービスだけでは地域生活を営めないという課題を知り、住民の小さなつばやきを拾いつなげられるネットワークが必要だということを知りました。小田原市では、ケアタウン構想という支え合いの仕組みをつくり、新しい小田原に向かってまさに動き出そうとしているところで、大きく展開していく小田原のまちづくりに自分も関わりたいと思いました。



現在の仕事内容

高齢者相談担当に所属しケースワーカーをしています。経済的に生活が困難な方や人間関係が希薄な方など、地域で自立した生活を送ることが難しい方を対象に相談支援を行っています。そのような方たちは、制度やサービスの利用が困難な状況にある方がほとんどで、どうやって制度につなぐか、これがケースワーカーの大きな役割です。多岐に渡る社会制度やサービスを活用するので、地域包括支援センターやケアマネジャーといった福祉の専門職だけでなく、病院や警察、家庭裁判所、行政書士など他機関他分野の人たちとも協力しながら、高齢者の支援にあたっています。

その他にも窓口業務や、担当の事務仕事もあります。毎日様々な相談が飛び込み、学ぶことが絶えない職場です。福祉に関心がある方や人と接することが好きな方はやりがいのある仕事だと思います。

仕事のやりがい



福祉といっても、仕事を通して他分野多領域の人と関わるため、福祉以外の分野も勉強できとても面白いです。また、何より市民の方や現場の声に直接触れることができるというのが、この仕事の大きなやりがいだと思います。ケースワークでは対象者のお宅に訪問し、その方の状態や課題などを把握します。窓口では、市民の方が介護や生活に対する様々な思いを話されていきます。そのような、生の声を聴き、地域や個人を取り巻く課題と向き合い、少しでもいい方向につないでいくのが私たちの仕事だと思います。

大きな責任やプレッシャーはありますが、地域と向き合える職場は数少ないと思い、職場の先輩や様々な機関の人たちと協力しながら、日々業務に臨んでいます。

受験生の皆さんへのメッセージ

就職活動をする中で、「自分は何をやりたいのだろう」と何回も何回も問いかけることと思います。その問いに、まずは向き合うことが大切だと思います。今までの学生生活や様々な経験をしてきた中で、何か心に引っ掛かるものがあると思います。それが自分の興味関心があることで、何らかの形でつながっていたいものではないでしょうか。それが掴めれば、エントリーシートや面接の時、志望理由や意見を求められても一貫した思いを伝えることができます。希望の会社を知ることや、就活のマナーを勉強することも大切です。しかし、まずは自分自身のことをよく知ること。これが、一番の近道ではないでしょうか。

上司から一言

高齢介護課は、介護保険や介護予防をはじめ、高齢者の相談や支援、生きがいづくりなど、高齢者に関する様々な仕事を行っています。仕事は大変ですが、福祉の仕事に熱意や意欲のある方にはやりがいのある職場です。